

『科学者という仕事』訂正・追加表 酒井 邦嘉

再版の訂正・追加

- p.i, 1.1 【"と言う。"】を【"と言うことが多い (doctor of scienceなどもある) 。"】
- p.96, 1.10 【ビソロッティ】を【ビッソロッティ】
- p.162, 1.7 【(--筆者注) 】を【[--筆者注] 】
- p.43の図説 【計算メモ】を【計算メモ (1665年ころ) 。文献(1)より】
- p.102, 1.13 【又世にでることになった】を【又、日の目を見ることのなかった】
- p.118, 1.11 【これなくしては】を【自由がなくては】
- p.155, 1.14 【其の】にルビ「そ」
- p.214の図説 【カハール】を【カハール 1932年ころ】

第3版の訂正・追加

- p.271, *4, 1.1 【l'】を次行へ
- p.271, *4, 1.4 【c'】を次行へ

第4版の訂正・追加

- p.206, 1.3 【判明した。】に (37)を追加
- p.210, 1.5 (37)村松秀『論文捏造』中公新書ラクレ(2006)を追加

第5版の訂正・追加

- p.26, 1.8 【ラテン語の「コギト・エルゴ・スム」(われ思う、ゆえにわれあり)】を【「われ思う、ゆえにわれあり」(フランス語原文は je pense, donc je suis)】
- p.26, 1.9 【訳す】を【解釈する】
- p.34, (7) 【わが相対性理論】を【特殊および一般相対性理論について】
- p.34, (7) 【1973】を【2004】
- p.229, 1.6 【意識的に】を【意識的に結果から原因へとフィードバックをかけて】
- p.229, 1.7 【自動的な処理や不要な学習を抑制するために】を【不要な動作を抑制しながら生ずる自動的な処理では】
- p.229, 1.16 【前に練習していた時】を【以前】
- p.229, 1.17 【びっくりすることがあるものだ】を【驚くことがある】
- p.229, 1.17 【一夜漬け】を【トレーニング後に一晩休むだけ】
- p.230, 1.1 【きたので】を【きており】
- p.230, 1.1 【夏の間】を【夏】
- p.230, 1.2 【と言われるのにも一理ある】を【とか「水泳は冬にうまくなる」と言われるように、自動的な定着のメカニズムもある】
- p.270, * 5 【p.1】を【p.15】

第6版の訂正・追加

- p.70, 1.6 【文法の構造】を【統語構造】

第8版の訂正・追加

- p.148, 1.5 【物理の講義】を【鈴木増雄先生の物理の講義】

第9版の訂正・追加

- p.159, 1.4 【イギリスに設立されている】を【ケンブリッジ大学の物理学科となった】
- p.168, 1.3 【、次の五カ条にまとめられる】を【次の五カ条である (二〇〇六年時点)】
- p.170, 1.12 【活字を通した】を【信頼性のある】

第12版の訂正・追加

- p.38, 1.6 【1727】を【1726】
- p.167, 1.9 【記事を丸ごと】を【記事全体を丸ごと】
- p.258, * 51 【p. 229】を【p. 228】